

研究主題「みんな輝く学級経営を目指して
～一人一人のよさやその子らしさが生きる環境や援助を探る～」



江東区立ひばり幼稚園

【主題設定の理由】

教師の願いや課題として「幼児理解に基づいた援助の仕方や、それぞれの幼児への適切な援助の手立てを探っていきたい」「その子らしさ、個々のよさを伸ばしていける援助をしていきたい」「自分も大好き・友達も大好きと思えるような学級経営をするために必要な援助について探っていきたい」ということがある。そのため、様々な人と関わることを楽しめる幼児、自分のよさや友達のよさに気づき互いに認め合える幼児、自分も大好き・友達も大好きと思える幼児を育むために環境の構成や教師の援助について探りたいと考え、本主題を設定した。

【研究の方法】

- 生活や遊びの場面でのエピソードをとり、幼児の姿を分析した。そして、教師の関わり方や、環境の構成について意見を出し合い、今後の方針を園全体で共有した。
- 6月と11月に子ども発達コンサルタントの石澤 かずこ先生を講師としてお招きして、研究保育や研究協議会を実施し、教師の援助の方法や環境の構成についてご指導いただいた。

【実践事例や研究保育を通して学んだこと】



集合時、幼児が聞こうと思えるような話し方をしたい。

・指示を出す時は、短く簡単な言葉で伝えましょう。

・幼児が主体的に行動したくなるよう、褒めのサンドイッチを意識しましょう。
(褒めのサンドイッチとは…かっこいいところを認め注意をひく(褒め)→話を
する→しっかりと聞けたことを認める(褒め))

・「今から2つ言うね」など見通しをもって聞けるような工夫をしましょう。



たくさん自分のよさに気付いてほしい。

・取り組んでいる時に「いいね!」と伝えてあげるとよいでしょう。

・思いをうまく言えない幼児には、気持ちを言語化してあげることが大切ですね。

・意思表示をした時に、相手に伝わってよかったと思える成功体験を重ねられるとよいでしょう。



一人一人の幼児への適切な援助を探りたい。

・幼児の様子を事例に起こし、園内研で考えることで幼児を
多面的に捉え、様々な援助を考えましょう。

・保護者との連携を図ることで、よりよい援助へとつなげていきましょう。



事例検討や研究保育を通して、保育の中で意識したこと



幼児を多面的に捉えたことで、幼児理解が深まり、幼児との関わり方が変わってきた。

肯定的な言葉掛け

- 素敵だなどと思う姿は言葉にして伝える。
「いいね!」「こんなところが素敵だね」
- 結果だけを認めるのではなく、頑張っている過程を認める。
「頑張ってるね!」
- 気持ちに寄り添い、安心できるような言葉掛けをする。
「(根拠のある) 大丈夫だよ!」
「困ったことがあっても必ず助けるよ!」



肯定的な行動

- 一緒に遊びながら、楽しいことを共有し、信頼関係を築く。
- 一人一人の幼児の気持ちに寄り添う援助を心掛ける。
- 注意が必要なことでも、幼児の話を否定せず最後まで聞く。その上で、一緒に解決策を考える。
- 保護者や関係機関と連携を図り、幼児理解をさらに深めていく。

先生は自分のことを見ていてくれる!
何かあっても先生が助けてくれる!

安心感



幼稚園で過ごすの楽しいな♪
いろんなことをやってみよう!

信頼感

【研究の成果】

幼児側の成果

- 教師が肯定的に見てくれることに安心感をもち、教師とのコミュニケーションが増えることで、安心して生活するようになった。
- 自分のよさを認めてもらう機会が増えたことで、友達のよさにも気付けるようになった。
- 褒めのサンドイッチや分かりやすい指示を受けることで、主体的に行動するようになった。さらに、行動したことを褒められることで、認めてもらう喜びを感じ、教師への信頼感へとつながった。
- 自分の気持ちを大切にもらう経験を積み重ねたことで、自分が大切な存在だと感じるようになった。

教師側の成果

- 事例検討や研究保育を通して幼児を多面的に捉えることで、幼児理解が深まり、教師の関わり方が変わった。
- 褒めのサンドイッチを意識したことで、幼児に指示が通りやすくなり、困っている幼児に気が付きやすくなったことで個々に必要な援助ができるようになった。
- 講師の先生の温かい関わり方をモデルとし、保護者の方にも、「一緒に考えましょう」「一緒に育てていきましょう」という気持ちで話をするできるようになった。
- 一人一人のよさに目を向け、まずは幼児を受け止めることを意識できるようになった。

【今後の課題】

○今後も教師間の連携をとりながら、幼児一人一人が自分のよさが分かり、「自分大好き、友達も大好き」と思えるような援助を積み重ねていく。また、一人一人が輝く学級経営ができているかを度々振り返り、教師の援助や環境の構成を工夫していきたい。

